

昭和56年度漁況海況予報事業浅海定線調査 (陸奥湾) (要 約)

永峰 文洋・三津谷 正・天野 勝三・高林 信雄・奈良八三郎
白取竹次郎・山本 正昭・浜田 勝雄・吹越 弘光・金田一拓志

この調査は、陸奥湾内における海況の特徴や永年変化などを把握して、湾内の漁業および増養殖業の健全な発展に資するため、海況予報に関する基礎資料を得ることを目的として実施しているものである。本年度は継続10年目の調査年度であった。なお、結果の詳細については、別途報告書が発行されている^{*}ので、これによっていただきたい。

調 査 方 法

調査地点・回数：6地点、昭和56年4月～57年1月の間に12回実施。

調査水深：0・5・10・20・30・40・40mおよび底層(海底面上1m)。

調査項目：水温・塩分・COD(2地点)・溶存酸素・クロロフィルa・水色・透明度、卵・稚仔魚(2地点)、動物プランクトン(2地点)・植物プランクトン(2地点)、
気象。

調 査 結 果

- (1) 海況の推移と特徴については表-1にまとめて示した。
- (2) CODは一時的に1ppm前後となることもあったが、全体としては0.3～0.6ppmであった。
- (3) クロロフィルaは0.076～1.483mg/m³であった。季節変化では10月の増加が特徴的であった。
- (4) 溶存酸素量の最低値はst.3の底層で10月に得られた3.03ml/l(飽和度54.0%)であった。底層での低下は5月頃から顕著となり、9～10月に最低値を記録し、11月に回復した。
- (5) 水色は例年より高く、透明度は低かった。特に7月6～7日には著しい高水色・低透明度が観測された。
- (6) 卵・稚仔魚では、カタクチイワシは今年度も出現が少なかった。稚仔魚ではアイナメが最も多く見られた。
- (7) 表1のように今年度は特に低塩分化が顕著であった。これは、5～8月の降水量が例年よりかなり多かったことと、夏以降の外海水による塩分供給が著しく低下したことによるものと考えられる。

* 昭和56年度漁況海況予報事業浅海定線調査結果報告書(陸奥湾) 昭和57年3月

表-1 昭和56年度陸奥湾海況の推移と特徴

月	実 況	例 年 比 ・ 前 年 比	気 象 ・ そ の 他 特 記 事 項
4	<p>●水温は表面で6～8℃、底層では5～8℃で、西湾が高い。</p> <p>●塩分は32.5～33.5%で西湾側が高い。</p>	<p>●水温は、例年と比べて西湾では同程度～1℃未満高め、東湾では1℃前後低い。前年比では1～2℃、ところによっては3℃程高い。</p> <p>●塩分は、例年より全湾的に低く、0.5%前後下まわっている。前年比では底層で低めの他は一般的に高め。</p>	<p>●桜(ソメイヨシノ)の開花日 青森 4月27日(早1日) むつ 4月29日(早2日)</p>
5	<p>●水温は表面で9～11℃、底層では6～8℃。</p> <p>●塩分は32.5～33.6%で、前月と同傾向であるが、東湾底層でも上昇した。</p>	<p>●水温は例年と比べて底層で最大2℃ほど低めの他はほぼ例年並み。前年比では同程度。</p> <p>●塩分は西湾では例年並み、東湾では依然0.5%ほど低い。前年比では同程度。</p>	<p>●中旬後半・月末異常低温</p> <p>●降水量の平年比 青森 192%</p>
6	<p>●水温は表面12℃前後、底層8～11℃で昇温は緩慢。</p> <p>●塩分は表面32.3～32.6%、底層33.1～33.4%</p>	<p>●水温は、底層で例年並みの他は、一般的に低く、その差は表面では3℃以上となっている。前年比では、表面では3～4℃下まわっているが、底層では大差がない。</p> <p>●塩分は、一部を除いて一般的に例年より低く、最大0.8%程度の差がある。前年比では、底層でほぼ同程度となっているが、表面・東湾中層では0.3%程度下まわっている。</p>	<p>●異常低温・寡照引き続く</p> <p>●青森の入梅日 6月11日(早4日)</p>
7	<p>●水温は表面18～21℃、20m層14～17℃、底層10～15℃で中旬にはいって順調に昇温した。</p> <p>●塩分は表面では更に低下し31～32%台が中心で最低値では28%台を記録した。底層では前月より0.5%ほど上昇し、33.5～34%となった。</p>	<p>●水温は中旬の昇温により、例年比では1℃前後高めに転じたが、東湾の底層ではなお若干低め。前年比では一般的に2～3℃低い。</p> <p>●塩分は底層では例年より高め気味となったが、表層では依然として一般的に0.5～1%低い。前年比では表層でははなはだしく低く、その他は同程度～0.5%程度高い。</p>	<p>●7月5日～7日大雨 蟹田の雨量121mm。7月6～7日の観測結果では1地点で透明度2.5m、水色10。</p> <p>●青森の出梅日 7月17日(早9日) 梅雨量の平年比149%</p>

月	実 況	例 年 比 ・ 前 年 比	気 象 ・ そ の 他 特 記 事 項
8	<ul style="list-style-type: none"> ●水温は表面22～23℃、20m層19～22℃、底層14～16℃となり底層では著しく昇温した。最高水温は23.1℃で例年よりかなり低かった。 ●塩分は中層以浅では湾口部付近以外は32%台、底層ではほぼ前月と同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水温は例年と比べて表面ではほぼ同程度となったが、中・底層では1～2℃低い。 ●塩分は底層では例年並み、他は1%近く下まわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●21～23日大雨・強風害（青森の雨量169mm） ●月降水量の平年比青森191%、むつ280%
9	<ul style="list-style-type: none"> ●水温は表・中層ではおおむね20℃台、底層では17～20℃であった。 ●塩分は西湾～中央部底層で33.7%前後となっている他は32%前後であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水温は例年より1～3℃低い。前年比では、西湾で低め、東湾では高めで深度が増すほど差は大。 ●塩分は例年比では底層を除いて1%近く低い。前年比では中央部でやや高い他は0.5%前後低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●7・中旬の気温は全般に平年より2～3℃低かった。 ●県内水稻作況指数87で「著しい不良」。55年・28年に次ぐ戦後3番目の悪い作柄。
10	<ul style="list-style-type: none"> ●水温は表・中層で19℃前後、底層では18～19℃。底層での最高水温は9～10月にかけて19～20℃を記録。 ●塩分は湾口部寄りの底層で33.5%台の他は32.5%前後。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水温の例年比では中央部～西湾底層で同程度の他は1℃前後低い。前年比ではほぼ同程度。 ●塩分は例年より最大で1%ほど低い。前年比でも0.5%前後低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●青森の初霜 10月21日（遅6日） ●st.3の底層でDO3.03ml/l（54.0%）
11	<ul style="list-style-type: none"> ●冷却・混合は急速に進み、水温は13～15℃で水深による温度差はなく、西湾側が東湾側より高い。 ●塩分は一部で33%前後の他は32%台。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水温は例年比で1～2℃下まわり、前年比では同程度からわずかに低め。 ●塩分は例年比で0.7～1%低く、前年比でも0.5～1%下まわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●県下全般に低温で経過。6～9日には低温・大雪に見舞われる。 ●青森の月平均気温3.4℃（低い値の第1位）。
12	<ul style="list-style-type: none"> ●水温は前月から更に3～5℃降温し、9～11℃となった。 ●塩分は32.7%前後で冬季間の塩分値としては例年のない低水準が続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水温は例年比で1～4℃、前年比で2～4℃それぞれ低かった。 ●塩分も例年比0.7～1%、前年比0.5～1%下まわった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●11月上旬から12月中旬まで異常低温続く。 ●下旬暖冬
57. 1	<ul style="list-style-type: none"> ●水温は、西湾では5～8℃、東湾では3℃台。西湾側では20m付近を境に下層で高水温。 ●塩分は、西湾側では33%を越え幾分上昇したが、東湾側では前月までと大差がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水温は、例年と比べて東湾中央部底層で1℃ほど上まわっている他は全般的に1～2℃前後低い。 ●塩分は0.2～1%例年より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●異常高温